

令和6年9月13日

人権教育課

生徒人権委員会フィールドワークに参加しました

昨年に続き今年も8月1日に、人権委員3名が「中予地区生徒人権委員フィールドワーク」に参加しました。他校の人権委員30名ほどと一緒に、岡山県にあるハンセン病療養施設「国立療養所長島愛生園」を訪ねました。

ハンセン病を取り巻く問題については、令和4年度は「人権教育学習会」で、全校生徒・全教職員が理解を深めました。令和5年度は、コロナ禍で中止が続いていた人権フィールドワーク（長島愛生園訪問）が復活し、本校からも人権委員3名が参加しました。また、それら以外でも、人権デーでハンセン病に関する問題を取り上げたり、HR活動で学習したりしてきました。みなさんはハンセン病について、あるいはハンセン病を取り巻く問題についてどのくらい理解しているでしょうか。

今回の人権デーは、今年フィールドワークに参加した生徒の感想や意見を紹介します。

●ハンセン病感染者が集落で出してしまうと、その人は集落全員から白い目で見られ、ハンセン病患者の家族も偏見や差別の対象にされてしまったそうです。ここまでハンセン病患者にあたりが強かったのは、ハンセン病は、ペストやコレラなどと同じ、恐ろしい伝染病であると考えられていたからです。しかし、ハンセン病の特効薬が登場し、ハンセン病は適切な治療をすれば治る病気になったのにもかかわらず、ハンセン病患者の強制収容は続けられ、偏見や差別がなくなることはありませんでした。それは人々にハンセン病は恐ろしいというイメージが植え付けられたからですが、その当時、政府の指示で保健所の方がハンセン病患者の家を徹底的に消毒していたそうです。その光景をみていたなら、ハンセン病にいいイメージは持たないでしょう。しかし、治る病気と言われるようになって、政府が強制収容を続けているからと、人々がハンセン病を知ろうとしなかった結果、差別が長く続いてしまったと学ぶことができました。これからも、コロナのような感染症がはやることがあると思いますが、周りが差別しているからと流されるのではなく、正しい情報を知り、正しい意見を言うことを意識して生活したいです。

●学芸員さんがついてくれて、とても分かりやすかった。患者さんの間で「自殺するならあの場所」という場所があり、とても悲しい気持ちになりました。生徒質問の時間に話題になった初代園長の光田さんについては「『患者を守る』という強い意志で尽力した人だが、隔離政策にずっと賛成だったということで、功罪両面を考えなくてはならない。」と知って、まだまだ知らないことがたくさんあると感じました。

ハンセン病問題をはじめとして、病気による差別は根強く残っています。無知や無関心が差別の根底にあることを理解し、差別解消に向けてどのような行動ができるか考えてみてください。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・切り取り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

今日の人権デーで考えたことや感想などを、自由に記述してください。

()年()組 氏名
